

## 2 畜種別等概要

### 【(1)肉用牛】

- ① 飼養頭数（令和4年2月1日現在）
  - ・ 総飼養頭数 337,800頭（対前年比96.2%）
  - ・ 繁殖雌牛頭数 117,800頭（対前年比99.3%）
  - ・ 繁殖雌牛頭数の全国シェア18.5%（全国第1位）【動向】繁殖雌牛頭数は、平成21年の134,700頭をピークに平成27年は113,000頭と減少していたが、平成28年から平成31年まで増加傾向で推移。令和4年は117,800頭で、平成27年と比べ4,800頭増加
- ② 飼養戸数（令和4年2月1日現在）
  - ・ 6,690戸（対前年比95.2%）【動向】飼養戸数は年々減少しており、平成24年の11,100戸から10年間で4,410戸減少
- ③ 1戸当たり飼養頭数（令和4年2月1日現在）
  - ・ 肉用牛全体 50.5頭（対前年比101.2%）
  - ・ 繁殖雌牛 18.8頭（対前年比112.2%）【動向】1戸当たりの飼養頭数は年々増加し、規模拡大が進行
- ④ 県内で肉用牛生産が盛んな地域（令和4年2月1日現在）
  - ・ 肝属地区 繁殖雌牛 32,200頭（県内シェア 24.7%）  
肥育牛 30,300頭（県内シェア 20.5%）
- ⑤ 出荷動向（令和4年）
  - ・ 子牛 出荷頭数 91,910頭（県内保留率 81.9%）  
価格(税込) 625,552円/頭（R4平均）（対前年比86.5%）
  - ・ 肥育牛 枝肉価格(税込) 2,519円/kg（R4平均）（対前年比96.8%）
- ⑥ 流通動向（令和3年）
  - ・ 牛食肉処理工場数 10か所（離島除く）、全処理頭数99,547頭
  - ・ 牛肉の輸出可能施設数 7か所、年間輸出量1,642 t
- ⑦ 肉用牛経営の収益性
  - ・ 繁殖経営については、近年、子牛価格が高水準で堅調に推移していたが、令和4年は、コロナ禍における枝肉価格の低下や国際情勢の変化に伴う生産資材価格の高騰等の影響により5月以降子牛価格が低下し、収益性が悪化。
  - ・ 肥育経営については、牛枝肉価格は、平成24年度以降は上昇に転じ、堅調に推移しているものの、出荷する肥育牛の素牛が高値であったことや配合飼料価格が高騰していること等から、令和4年8月以降は、牛マルキンの発動が続いている。  
今後とも生産性の向上とコスト低減を図っていく必要。

出典：①②③農林水産省「畜産統計」、④鹿児島県畜産課調べ、⑤鹿児島県経済連資料、⑥鹿児島県生活衛生課調べ

# 本県肉用牛の現状について

